

令和2年7月 球陽 SSH 活動記録

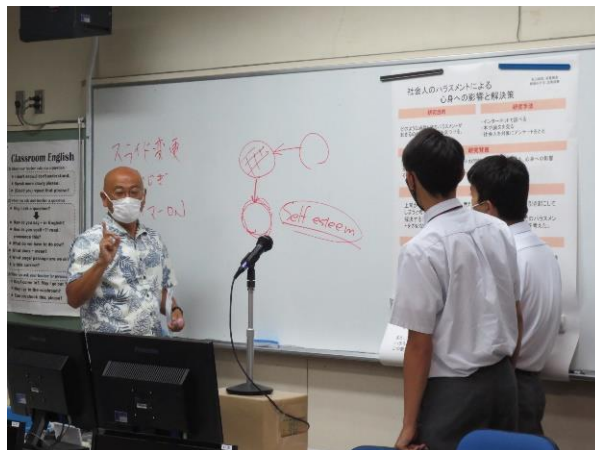
学校設定科目「国際探究 I」 テーマ検討会・第 1 回意見交換会(2020.7.16)

2 年国際英語科による探究活動のテーマ検討会が開催されました。本年度、初めて 8 名の琉球大学の先生方をアドバイザーとして招待し、生徒の研究活動に関するアドバイスを頂きました。発表後も生徒達は先生方と熱心に話をする様子もあり、生徒にとって大学関係者と意見交換することができる貴重な時間になったと思います。厳しい指摘を受けたグループもありましたが、それをバネにより良い研究を目指して頑張ってくれるでしょう。新型コロナウイルス感染症の影響により、休校期間が長引き、短い中での準備で大変だったと思いますが本当にお疲れ様でした。

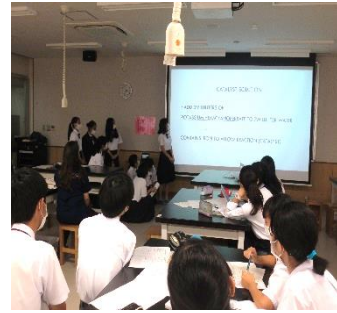
国際探究 I テーマ検討会後に琉球大学の先生方と関係職員による、第 1 回意見交換会を行いました。意見交換会ではテーマ検討会を振り返っての感想と今後の研究方法に関するアドバイス頂きました。

○探究アドバイザーの先生方

石川隆士(国際地域創造学部・教授)	杉尾幸司(大学院教育学研究科・教授)
濱田栄作(教育学部・准教授)	本村真(人文社会学部・教授)
池上大祐(国際地域創造学部・准教授)	瀬口浩一(国際地域創造学部・教授)
小林潤(医学部保健学科・教授)	小野寺清光(教育学部・教授)



SSH サイエンス イングリッシュ ラボ (2020. 7. 30)



7月30日に球陽高校ラボ室で外国人講師、Mary Beth McConnell、Jasen Ulep Ocol、John Wilkeningによるサイエンス イングリッシュ ラボが行われました。今年は「ルミノール反応」と「極低温で起きる不思議な現象」の2テーマで実施しました。SSHサイエンス イングリッシュ ラボは、様々な科学実験の内容の説明、実験、考察、発表までをすべて英語で行うという企画です。説明や実験中も全て英語で行われるため、高度な英語コミュニケーション能力が求められ、今年も外国人講師の方々にご協力を頂いて実施することができました。「ルミノール反応」ではルミノール反応の実験を行いました。ルミノール反応で、液体が青白く光った瞬間を見たときは、生徒も興奮して思わず声のでるほどでした。「極低温で起きる不思議な現象」では液体窒素を使った実験を行いました。生徒達は、 -196 度の液体窒素に見入っていました。どのグループも一生懸命話し合いながら楽しく参加している様子が見られました。実験後は、自分たちが行った実験について power point にまとめて、他の実験を行ったグループ同士、英語で実験内容を発表しました。最後は塩化ナトリウムと氷を混ぜて 0°C 以下の温度になる現象を学び、アイスクリームを作って、皆でおいしくいただきました。生徒はインプットもアウトプットも全て英語で行うため、少し悪戦苦闘していましたが、それでも一生懸命取り組んでいました。「凄いいっ！～なるほど～楽しいっ！」「難しかったけどとても楽しかった。」「科学も英語もやっぱり楽しいなと思った」というコメントが大多数で、素晴らしいワークショップとなりました。